

# Japanese Red Cross

高度医療に対応可能な設備と  
濃密な研修プログラムでスペシャリスト集団を養成

## 血液腫瘍科

血液腫瘍科は病床数66床のうち独立型無菌室6床を有しています。3次救命救急センター併設の基幹病院の中の血液腫瘍科として、造血幹細胞移植など高度医療に対応しています。小児血液腫瘍科と協力し造血細胞移植センターを立ち上げ、AYA世代の治療にも力を入れています。

臨床第Ⅱ相、第Ⅲ相臨床試験に参加し次世代治療への責務を担っている診療科です。対象疾患は血液疾患に加え、原発不明がん、胚細胞種などです。治療に際しては情報開示を原則としています。

- 日本血液学会、日本がん治療学会研修認定施設
- 日本臍帯血バンク認定施設、日本骨髄バンク認定施設



骨髄内臍帯血移植の風景



血液腫瘍科研修指導責任者

### 青墳 信之

副院長 / 内科認定医・総合内科専門医・血液学会専門医・指導医  
造血細胞移植認定医・日本ブライマリア学会連合学会指導医  
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

■研修指導医

第一血液腫瘍科部長 / 増田 貴一  
第二血液腫瘍科部長・造血細胞移植センター長 / 宇津 欣和  
血液学会専門医・がん治療認定医・新井 宏典  
血液学会専門医 / 仲村 彰子

## 01 研修期間

3年間（または血液学会専門医取得まで）

## 02 目的

内科学会専門医取得後に血液内科医または腫瘍内科医になる臨床経験を積み、学会発表および論文発表を行い専門医を取得する。

## 03 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

- (1) 血液内科医、または腫瘍内科医への臨床経験を積み、専門領域の疾患の診断、手技の取得、治療方針の決定、抗がん剤療法の実際、輸血療法、感染症治療、チーム医療、ICの取り方、ターミナルケア、各種臨床試験、移植医療（各種幹細胞移植すなわち自家移植—同種移植、フル移植—ミニ移植、骨髄バンク・臍帯血バンク、HLA半合致移植等）
- (2) 症例をまとめる、あるいはテーマを決めて学会発表および論文発表をする。  
\*注）血液腫瘍科後期研修コース、あるいは一般内科後期研修コースとしてローテーションをするかは応相談。

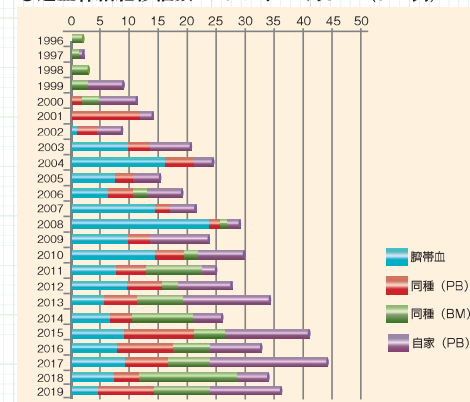
## 04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本血液学会	日本血液学会専門医	日本血液学会研修施設
日本造血細胞移植学会	日本造血細胞移植認定医	非血縁者間造血細胞移植認定施設

## 05 研修期間中に経験する症例等について

●造血幹細胞移植数 2019年12月まで（541例）

（血液・腫瘍科疾患のみ）



2018年度 初診患者

- 急性骨髄性白血病 ..... 29例
- 急性リンパ性白血病 ..... 5例
- 慢性骨髄性白血病 ..... 10例
- 慢性リンパ性白血病 ..... 6例
- 非ホジキンリンパ腫 ..... 81例
- ホジキン病 ..... 3例
- 多発性骨髄腫 ..... 27例
- 骨髄異形成症候群 ..... 37例
- 再生不良性貧血 ..... 11例
- 原発不明がん ..... 5例